

# 特集 Special

# 災害に強い地域づくり かめだに 亀谷自治振興区が防災マップを作成

**梅** 雨のシーズンを迎え、長雨や集中豪雨による洪水、土砂災害などが心配な季節になりました。比較的災害が少ないといわれる庄原市でも、平成16年の台風23号や平成18年豪雪など、近年思わぬ大きな災害により、尊い生命や貴重な財産が失われています。

庄原市や各防災機関は、災害に備えてさまざまな対策を実施していますが、実際に大規模災害が発生した場合、その被害を最小限に食い止めるには、地域の皆さんによる防災活動が不可欠です。

今回は、亀谷自治振興区(総領町)の「防災マップづくり」を紹介します。



亀谷地区の集落

## 1 高齢者が安心して暮らせる地域へ

総領町の中心部から府中市方面へ4キロ、国道432号と亀谷川に沿って、細長い谷間に集落が点在する亀谷地区には、85世帯、218人が暮らしています。

旧総領町では自治振興区による地域の自立をめざすため、自治振興区の経済活動を奨励し、亀谷自治振興区では、休耕田の活用と特産品開発をめざしたドジョウの養殖や大豆生産など、経済活動を自治振興区活動の柱として活動を行っています。

しかし、経済活動の一方、昨年度の自治振興区総会では、参加者から「高齢化が進み、

老人クラブも80歳以上の会員が大半を占め、会合や行事をすることも大変で、老人クラブの存続も危うい」と意見が出されるなど、地域課題の解決が重要なテーマとなりました。

実際に亀谷自治振興区の地域振興計画を作成する中で、改めて地域の状況を見渡すと、65歳以上の高齢化率は47%を超え、一人暮らしや二人暮らしの高齢者世帯が増えていました。「これは高齢化の問題に本気で取り組まないといけない」と、高齢者が安心して暮らせる地域づくりをめざすことになりました。

## 2 誰もが声を掛け合える 雰囲気づくり

高齢者が安心して暮らせるためには、助けてほしい時に、助けてほしいと言える雰囲気をつくるのが大事。亀谷自治振興区では、昨年8月から月に一度高齢者を集め、食事やおしゃべりをはじめ、健康づくりや昔なつかしい映画の上映会など、サロンを始めました。

サロンの企画や買い物、そ

して高齢者の送迎など、運営の中心的な役割を担う秋山義治さんは「高齢者に本当に喜んでもらっている。若い人で高齢者を支えようにも、その若い人がいない。このような交流を通し、高齢者同士が互いに支える関係ができれば」と今後の展開に期待を寄せています。



月に1度のサロン



## 自主防災組織をつくろう

阪神・淡路大震災では、救出された人たちの約6割が、近所の方々により救出されたという報告があり、自主的な住民組織の有効性が改めて認識されています。

自主防災組織は、地域住民が自主的に連帯して、防災活動を行う組織のことを言います。具体的には、平常時の防災訓練や広報活動、災害時には初期消火、救出救護、集団避難、避難所への給水給食などの活動を行います。

広島県の調べによると、平成15年4月現在で県内2,137団体の自主防災組織があり、県内全世帯の56.5%が加入しています。

庄原市においても、自治会や自治振興区による自主防災組織の取り組みが求められています。



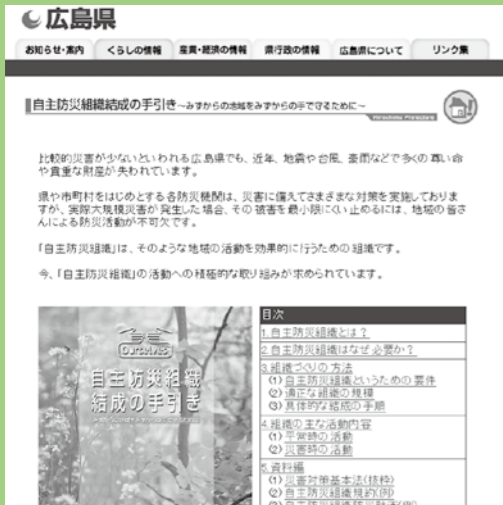
▲亀谷地区の土石流危険箇所



▲大雨の時は亀谷川が氾濫する危険性もある



▲亀谷防災マップを説明する秋山さん



■広島県ホームページ  
<http://www.pref.hiroshima.jp/kankyo/shoubou/bousai/>

## 自主防災組織への助成制度

### 庄原市コミュニティ推進補助金

庄原市コミュニティ推進補助金は、自治振興区による、消防防災資機材の整備を支援します。

毎年、前年度の10月頃に申請を受け付け、(財)自治総合センターの補助決定を受けて、翌年度実施します。

#### ●消防防災資機材の参考例

携帯用無線機、電池メガホン、可搬式動力ポンプ、ホース、エンジンカッターなど

#### ●申請・問い合わせ

自治振興課または各支所地域振興課へ  
 ☎0824-73-1209

ました。今後、自治振興区では、緊急事態対応マニュアルを作成し、防災訓練をする予定です。

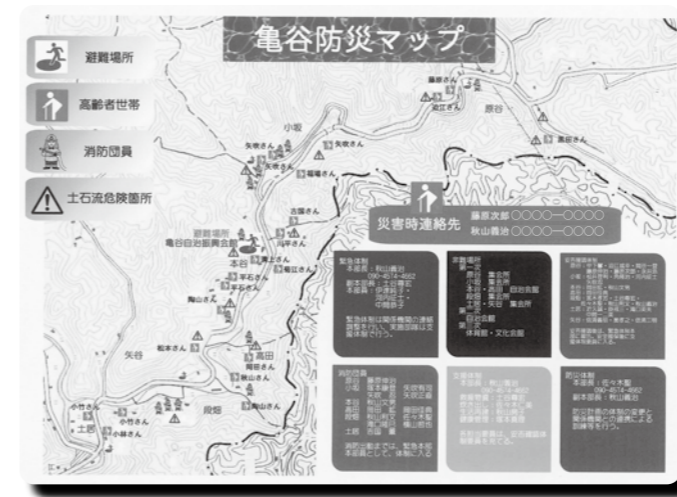
「小さい頃お世話になったおじさんやおばさんが、いつの間にか施設へ入所したり、都会の子どものところへ行ったりして、本当に寂しい。高齢者は皆いつまでも亀谷で暮らしたいと願っている。高齢者が元気で自立して、ここで1日でも長く暮らせる地域にしていきたい」と秋山さんは願っています。

## 今でも大雨が降ると、あの時の記憶がよみがえる



秋山義治さん

昨年、市職員を退職し、自治振興区の総務部長を務める。「退職後は、少しのんびりしながら地域のお役に立てればと考えていたが、実際には毎日のように自治振興区や福祉のボランティアで忙しい。しかし、毎日刺激があって楽しい」と話す。市職員時代には、都市整備課に14年間勤務し、まちづくりを担当。人に関心を持ってもらったり、人に集まってもらったり、市職員の経験が今でも役に立つ。また、昭和47年の大水害を市職員として経験。何日も家に帰られない日々が続いた。「今でも大雨が降ると、あの時の記憶がよみがえる」と地域防災に警笛を鳴らす。



このサロンを開催する中で「高齢者が一番災害に弱い。いざ災害が起きた時に、住民がどのように行動するのか想定しておくことが大事」と地域防災システムづくりに取り組みことにしました。

## 3 地域防災システムづくり

中豪雨で、民家が水没しかけ、住民が近くの集会施設へ避難した経験がありました。

今年2月、亀谷自治振興区の市職員が市の防災計画を、住民へ説明しました。そこで、災害が発生すると消防団員や市職員は動員され、この地域でどれだけ活動ができるか分からない、消防団員や市職員以外の地域住民で、お互いに助け合わなければならないことを学びました。

各集落から役員が集まり、実際に亀谷地区で災害が発生したことを想定しながら「この箇所が危ない」「この人にサポートが必要」などと、地図に一人暮らしや二人暮らしの高齢者世帯、土石流危険箇所を記入しました。2月から3月にかけて合計4回の会合を重ね、亀谷防災マップが完成しました。

この防災マップには、高齢者世帯や避難場所、消防団員、土石流危険箇所をマークし、高齢者世帯ごとに災害時の連絡先を記入しています。また、安否確認体制や避難場所、支援体制など、地域住民の役割も明記しています。

今後、現実に災害が発生すると、地域住民が、高齢者世帯の安全を確認し、避難が必要な時は、避難場所へ誘導または救出し、救援物資の配付や炊き出しなどを行います。



役員会で亀谷防災マップについて話し合う





①ため池の堤体に草木が繁っている、堤体のひび割れや漏水が見つけにくくなります。また草木の根が地盤をゆるめて決壊の原因になることがあります。梅雨前に立木や雑草は刈り取っておきましょう。

②ため池の洪水吐や放水路にゴミや土砂などが流れ込んでいたら、それらを取り除きましょう。また貯水量を増大させる目的で、土のうなどを積みあげている場合は、これを取り除いておきましょう。(土のうなどを取り除いていない場合、いわゆる人的行為によるものと判断される可能性があります)ある場合は、災害が発生しても復旧事業の対象となりません。

③事前に、ため池の堤体に陥没やひび割れ、漏水、湿って柔らかくなった箇所がないかを点検しましょう。もし異常があった場合は、速やかに連絡をお願いします。

④井せきの洪水吐で角落とし方式のものは、洪水時に操作できないので、大雨などの予報がでたら速やかに取り除いておきましょう。

毎年、集中豪雨などにより農業施設の災害が発生しています。また、市内には古いため池も多く、新たに災害が発生する危険性もあります。災害を未然に防ぐために、次のことに十分注意しましょう。

平成17年度  
庄原市災害件数  
農地災害 32件  
施設災害 21件

現在耕作されている農地(田・畑)・ため池、頭首工、用・排水路、農道など農業用施設が災害復旧の対象となります。

# 農業施設の災害防止を！



昨年の農地災害(高野町)

**災害対象となる主な条件は？**

- 24時間雨量80mm以上
- 時間雨量20mm以上
- 被災時の河川水位が警戒水位以上
- 1箇所の工事の費用が40万円以上のもの。
- 農業用施設は利用者(関係者)が2戸以上が対象

**地元の分担金は？**

- 農地 復旧事業費の4%
- 農業用施設 復旧事業費の2%
- ※工事着手前に納付していただきます。

**災害発生時の連絡先は？**

建設課耕地係または各支所環境建設課・建設課へ。  
期間が過ぎると対象にならない場合がありますので、早急にご連絡ください。

**問い合わせ**

建設課耕地係  
☎0824-73-1136

西城支所環境建設課  
☎0824-82-2182

東城支所建設課  
☎08477-215141

口和支所環境建設課  
☎0824-87-2113

高野支所環境建設課  
☎0824-86-2113

比和支所環境建設課  
☎0824-85-3003

総領支所環境建設課  
☎0824-88-3065

# 準備と情報で災害から身を守ろう

総務課行政係  
☎0824-73-1123



5月に西城町で発生した土砂災害

## 市全域で約1500箇所が危険

庄原市は山地が多く、土砂災害の危険がある場所(土砂災害危険箇所)が約1500箇所あります。災害へ迅速に対応するためには、大雨や危険箇所についての正確な情報や知識、また日ごろからの備えが大切です。



広島県土砂災害マップ  
<http://www.sabo.pref.hiroshima.jp/karte/>

## 土砂災害の前兆

土砂災害が起こる前には、危険箇所には何かの変化が現れます。次のような現象が見られたときは、すぐに安全な場所へ避難しましょう。

- 土石流** 山鳴りや立木の裂ける音がある。川の水が濁る。
- がけ崩れ** がけに亀裂が入り、小石が落ちてくる。がけからの水が濁る。
- 地すべり** 地面にひび割れができ、斜面から水が噴き出す。沢や井戸の水が濁る。

## いざという時の準備を

家族や地域で、災害時に集合する避難場所や避難ルート、連絡方法などを確認しておきましょう。また、ラジオや懐中電灯をはじめ、貴重品、食料、医薬品、衣類など持ち出すものをまとめておきましょう。

消防庁ホームページ災害・危機管理サイト  
<http://www.e-college.fdma.go.jp/top.html>

## 雨量に要注意

雨量が1時間に20ミリ以上、または降り始めから100ミリ以上になったら要注意です。県では、大雨の警戒や避難のため、気象や雨量の情報をインターネットや電話により提供しています。また、携帯電話からも情報を閲覧することができます。

■電話による雨量情報提供 ☎0824-72-0296

## 携帯電話用ホームページ

NTTドコモの携帯電話から  
<http://www.bousai.pref.hiroshima.jp/i>  
ボーダフォンの携帯電話から  
<http://www.bousai.pref.hiroshima.jp/j>  
auの携帯電話から  
<http://www.bousai.pref.hiroshima.jp/a>



## 雨量情報



広島県防災情報システム  
<http://www.bousai.pref.hiroshima.jp>